

生産性向上の取組状況に関するアンケート（1次・2次）調査結果【概要版】

調査概要

調査目的 【1次】県内建設企業の生産性向上にむけた事業活動の実態の把握 【2次】現場従事者を対象とした、日頃の業務改善に向けた取組みや意見・感想等の聞き取りや実態の把握

調査期間 【1次】2017年9月14日～9月19日

調査対象 【1次】長崎県建設業協会会員企業 382社 [回答数 180社 (回収率：47.1%)]

【2次】2017年9月22日～9月28日

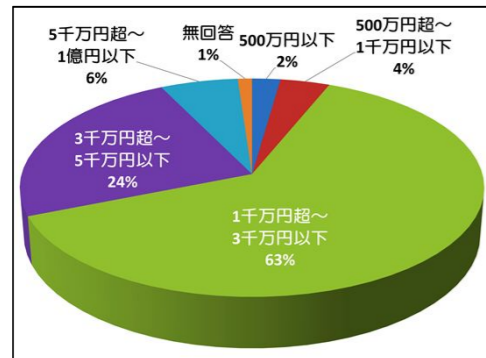
【2次】1次調査の結果から選定された生産性向上・構造改革に意欲的な企業の現場従事者（各5～20人）[回答数 17社 96人 (回収率：96.0%)]

調査方法 【1次・2次】FAXによる調査票の送付・回答

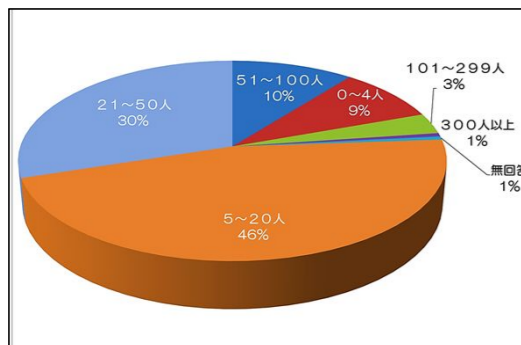
1. 回答企業の属性

資本金5千万円以下の企業が全体の93%。
従業員数20人以下の企業が全体の55%。

【資本金】

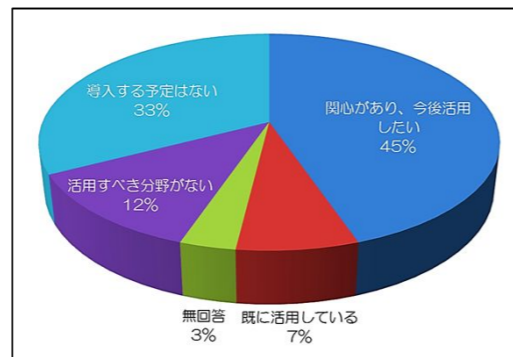


【従業員数】

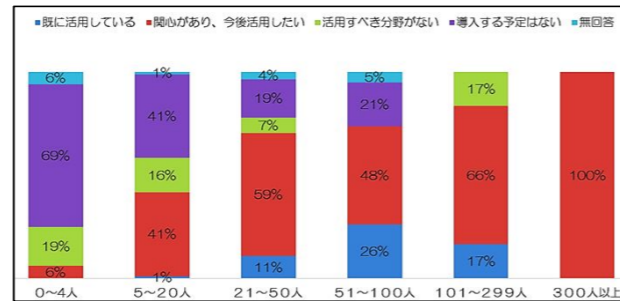


3. ICT導入について

ICT導入に前向きな回答が全体の5割近くを占める一方積極的でない企業も同程度と、二極化の傾向が表れた。また、従業員規模別においては、企業の規模に比例して前向きな回答の割合が高くなった。

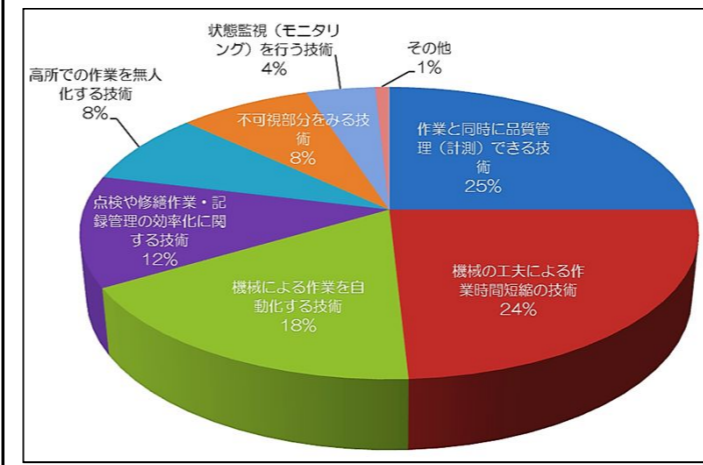


【従業員規模別】



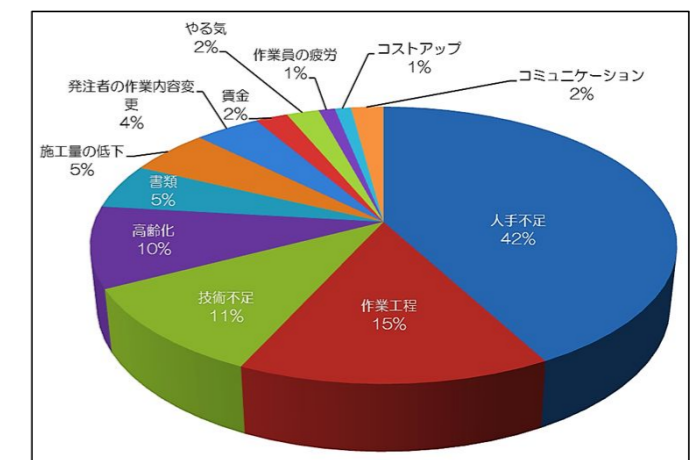
5. 労働生産性の問題

品質管理や作業時間短縮の技術を求める人がそれぞれ回答全体の約1/4を占めた。



6. 現在困っていること

現場作業における様々な問題が上がったが、現場従事者の立場においても、技術者や労働者といった人手不足の問題の深刻さがあらためて分かる結果となった。



7. 独自の工法・業務手法

《主な意見》

- 1日1回以上のミーティングによる作業手法改善・人的ミス予防（回答数7人）
- 型枠の大組施工方法などによる生産性の向上（回答数4人）
- プレキャスト化による工程短縮（回答数3人）
- 管理ソフトの導入による作業効率の向上（回答数2人）

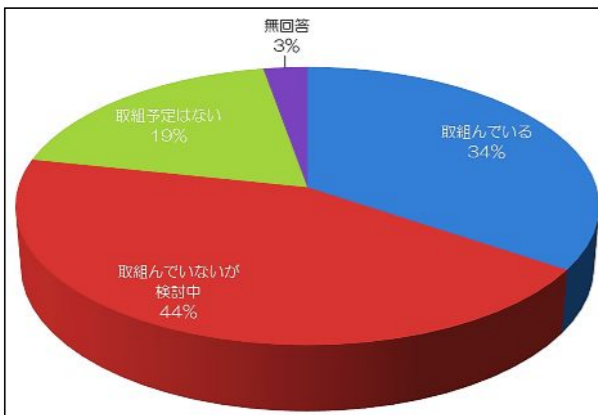
8. 現場作業におけるICTの活用

《主な意見》

- 大型造成工事に伴う切土や盛土作業時に必要（回答数7人）
- 立会頻度や提出書類、書類作成時間の低減のため（回答数5人）
- 小規模工事における管理の効率化のため（回答数5人）
- 舗装工におけるの路盤工・表層工の高さ、厚みの管理に必要（回答数4人）
- 立入困難な現場での測量や災害時の二次災害を防ぐ為の無人化施工（回答数4人）
（ドローンによる航空測量等）

2. 生産性向上の取組み

現在取組んでいる企業が34%、検討中が44%と、生産性向上の取組みへの前向きな意識を持った企業が多い。



4. 生産性向上に取組むきっかけ

「技術者・技能者不足」という回答が、回答全体の約1/4を占め、あらためて人手不足が明らかとなる結果となった。

